

2/10 福井

# 「戦闘」巡り防衛相苦慮

## 南スーダンPKO日報

南スーダン国連平和維持活動（PKO）部隊の日報に「戦闘」との表現があった問題で、稲田朋美防衛相が国会答弁に苦慮している。自衛隊が戦闘行為に巻き込まれる可能性を認めてしまえば、憲法9条が禁じる海外での武力行使につながり、部隊の撤収を迫られるためだ。稲田氏は「法的な意味での戦闘行為はない」と繰り返すが、日報からは緊迫した情勢が浮かぶ。表現の置き換えは、隊員のリスクを覆い隠す危険をはらんでいる。【1面に本記】

PKO部隊の日報による現地情勢	稲田防衛相の答弁	民進党の指摘
宿営地周辺での流れ弾や突発的な巻き込みが注意が必要	戦闘行為は法律上の定義がある。混同されようとする「戦闘」という言葉は国会で使うべきではない	戦闘なのに武力衝突（いんべい）している
戦車や迫撃砲を使用した激しい戦闘	日報には戦闘とあったが、南スーダンでは法的な意味での戦闘行為はなかった	戦闘行為であれば、部隊を撤収しなければならぬ
宿営地隣のビルで断続的な射撃	一般市民を殺傷する行為はあったが、国際的な武力紛争の一環としてのものではなかった	稲田防衛相の辞任を要求する

### 巻き込まれ 戦闘なら... 憲法9条に違反も

「戦闘行為は法律上の定義がある。混同されようとする『戦闘』という言葉は国会で使うべきではない」。稲田氏は9日の衆院予算委員会ですら強調した。政府は部隊の周辺で戦闘行為が生じる可能性を懸念し、最大限の注意を払ってきた。巻き込まれて自衛隊が応戦すれば、憲法9条違反になりかねないからだ。日報を巡って

都シユバでは政府軍と反政府勢力がぶつかり、270人以上が死した。当時の日報は「戦車や迫撃砲を使用した激しい戦闘」や、宿営地隣のビルでの「断続的な射撃」があったと記す。「宿営地周辺で流れ弾や、市内での突発的な戦闘への巻き込まれに注意が必要」とも明記された。稲田氏はこれをあくまでも「武力衝突」だと言いつつ、日本政府は戦闘行為を「国際的な武力紛争の一環として

行われる人を殺傷し、または物を破壊する行為」と定義。国際的な武力紛争は「国または国に準ずる組織（国準）間の武力を用いた争い」と解釈する。南スーダンの反政府勢力は「支配領域や系統立った組織がない」（稲田氏）ため、国準には該当せず、政府軍と衝突しても戦闘行為にはならないとの論法だ。紛争当事者間の停戦合意などPKO参加5原則も満たすとの立場も貫いている。

政府は昨年10月、南スーダンのPKO部隊の派遣期限を今年3月末まで延長し、昨年11月には安全保障関連法に基づいて「駆け付け警護」の新任務の内容が9日、新たに判明した。政府軍と反政府勢力間で銃撃戦が起きたことや戦車、ヘリコプターが投入されるなど、宿営地がある首都シユバの治安が急速に悪化している。防衛省が同日、民進党

「不安を隠している」（後藤祐一氏）と批判を強め、防衛相の辞任を要求。問題にはわかに通常国会の大きな火種になり始めた。民進党は「戦闘なのに武力衝突だ」と隠蔽している」（後藤祐一氏）と批判を強め、防衛相の辞任を要求。問題にはわかに通常国会の大きな火種になり始めた。

いた問題で、日本にいる派遣隊員の家族からは9日、防衛省の対応に不信感をあらわにする声が続出した。「防衛相が『戦闘』を『武力衝突』と言葉を言い換えて、現地在安全かのよう表現するなんて、国民をばかにしている」と憤るのは、息子（43）が現地のPKO施設内で道路整備などを担当している青森県陸奥市の新谷弘美さん（75）だ。

### 戦車投入急速に治安悪化 南スーダン、新たな日報

南スーダン国連平和維持活動（PKO）派遣部隊が、現地で起きた大規模戦闘後の昨年7月10日付で作った日報など、さらに治安が悪化する可能性に触れ「最悪のケースを想定した対応についても準備を検討することが必要」と記している。具体的な記載はないが、部隊が強い危機感を出した家族を何だと思っ

たのか」と語気を強めた。20代の息子が現地で活動する青森市の男性会社員（57）は「戦闘があったと認識しているなら、家族に報告するのが筋だ。不安を抱えながら送り出した家族を何だと思っ

たのか」と語気を強めた。20代の息子が現地で活動する青森市の男性会社員（57）は「戦闘があったと認識しているなら、家族に報告するのが筋だ。不安を抱えながら送り出した家族を何だと思っ

たのか」と語気を強めた。20代の息子が現地で活動する青森市の男性会社員（57）は「戦闘があったと認識しているなら、家族に報告するのが筋だ。不安を抱えながら送り出した家族を何だと思っ



衆院予算委で答弁する稲田防衛相 = 9日午前

### 「戦闘」表現見直し 河野統幕長が指示

南スーダン部隊に防衛省制服組トップの河野克俊統合幕僚長は9日の定例記者会見で、南スーダン国連平和維持活動（PKO）派遣部隊の日報の「戦闘」との表現を巡り、「言葉の意味を認識するよう現場部隊に指示した」と述べた。

表現を問題視する国会での野党の追及などを受けて、今後は政府見解に合わせて「戦闘」と「武力衝突」の意味を使い分けるとの考えを示したものだ。

表現を問題視する国会での野党の追及などを受けて、今後は政府見解に合わせて「戦闘」と「武力衝突」の意味を使い分けるとの考えを示したものだ。

表現を問題視する国会での野党の追及などを受けて、今後は政府見解に合わせて「戦闘」と「武力衝突」の意味を使い分けるとの考えを示したものだ。

表現を問題視する国会での野党の追及などを受けて、今後は政府見解に合わせて「戦闘」と「武力衝突」の意味を使い分けるとの考えを示したものだ。

### 不信募らす 隊員の家族

防衛省が公表した南スーダン国連平和維持活動（PKO）派遣部隊の日報に「戦闘」との激しい現地情勢が記されて

いた問題で、日本にいる派遣隊員の家族からは9日、防衛省の対応に不信感をあらわにする声が続出した。「防衛相が『戦闘』を『武力衝突』と言葉を言い換えて、現地在安全かのよう表現するなんて、国民をばかにしている」と憤るのは、息子（43）が現地のPKO施設内で道路整備などを担当している青森県陸奥市の新谷弘美さん（75）だ。